

# ◆平城京左京三条一坊九坪の調査 —第303-5次

はじめに 住宅建設に伴う発掘調査。トレンチの場所は平城宮壬生門から東南方向へ約100mの位置にあり、東西に長い8m×2mの発掘区を設定した。

検出遺構 土層は、上から厚さ20cm程の耕作土、厚さ20cm程の暗黄灰色土の床土があり、その下に厚さ10cm程の黄灰色土・灰褐粘質土の遺物包含層がある。

検出遺構は溝一条で、発掘区南半部で奈良時代の東西溝SD7745の北肩を検出した。溝幅はトレンチ南まで70cmあり、溝の南肩はトレンチ外にのびる。溝の深さは約40cmで、上層が灰褐粘質土、下層が白色砂質土の堆積があ

り、下層から奈良時代後半の土師器・須恵器が出土している。

調査地は、平城京左京三条一坊九坪の東西・南北ともほぼ中央に近い部分にあるが、今回検出した東西溝SD7745は九坪の南北をほぼ二分する位置にある。ただ、九坪内の東端中央部分の調査(第242-9次)では、東西溝を検出していないので、SD7745が坪の西端から東端まで連続するものであるかどうかは、今後の発掘調査によって確認する必要がある。(山崎 信二)

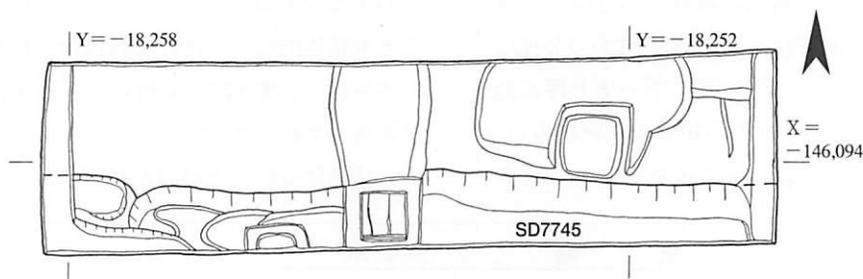


図83 第303-5次調査遺構図 1:80

表13 1999年度 その他の調査一覧

調査次数	地区	概要
303-1	北面大垣	南北5m、東西4m、20㎡の調査区を設定。奈良時代の遺構はなく、近世および近現代の土坑2基を検出。近世の土師器、近現代の陶磁器が出土。
303-3	薬師寺東門推定地	電線埋設による事前調査で、調査区は南北2.3m、東西0.4m。平城京西二坊間路と六条条間路との交差点付近に当たり、薬師寺東門もしくは東面築地の基壇東側石と考えられる幅約21cmの花崗岩製南北石列を検出した。その下層からは、近世の竹製上水道のジョイント部分にあたる木材が2点出土した。
303-6	北面大垣	南北4.5m、東西2m、9㎡の調査区を設定。表土直下で地山。現代の攪乱あり。
303-7	左京三条一坊二坪	南北3m、東西3mの調査区を南北2ヶ所に設定。北区北端で宅地内の区画溝の可能性のある東西溝の南肩を検出。他に小柱穴もあるが、遺構としてはまとまらない。土器瓦少量出土。
303-9	薬師寺境内	ライトアップ用の照明設置に伴う調査。薬師寺回廊の外周部分の東・西・南東・南西側に、1.6m四方の調査区を4カ所設定(計10㎡)。現地表下1.5mまで掘り下げ、各所で整地層を確認した。土器1箱分、軒瓦7点を含む、瓦18袋分が出土。
303-11	宮内、内裏北方遺跡	南北5m、東西2m、10㎡の調査区を設定。市庭古墳の周濠位置にあたっており、地表下35cm以下は平城宮造営時に周濠を埋め立てた整地土層が深さ1m以上に及んでいる。
303-12	宮内、西面北門北東部	南北2m、東西4m、8㎡の調査区を設定。奈良時代の小穴1基、近世以降の土坑1基。奈良時代の土器・瓦が出土。